

国際交流員のミッチェル・モンタリオン、10月の神祭を体験

室戸市の皆さん、ヤッホー！！2年ぐらい前にアメリカから室戸市に引っ越して最近までALT（英語の先生）として学校に通っていたミッチェルです！都会のシアトルから小さな室戸に来て住むことに最初は不安でしたが、皆さんが優しくてくれて新しい生活にも慣れ、これまでの2年間で信じられない体験もさせていただきました。新たな友達との出会い、美しい景色の発見、そして素晴らしい文化を学ぶ機会がたくさんありました！皆さん、ありがとうございます！



室戸市が好きになったので、この8月から室戸市観光ジオパーク推進課で国際交流員として働くことになりました！これからも室戸市の一員として頑張りますので、よろしくお祈りします！

10月の神祭では、室津地区の八幡宮に参加させていただきました！初めてのふんどし着用は、とてもきつかったです！朝早くからお酒が振る舞われ、昼前にはすでに酔ってしまいました。神社から神輿を担ぐ機会もありましたが、ふんどしを着ていて酔っていたため思ったよりも大変でした！こんな文化を体験させていただいて本当に嬉しいです。見ず知らずの僕に特別なイベントをシェアしてくれた皆さんに、心から感謝しています。

Thank you! (でも、肩がまだ痛い！)

知ってる？ジオパーク

モロッコでの地震体験から

室戸ジオパーク推進協議会
地理専門員
なかむら あきふみ
中村 昭史



9月7日(木)～11日(月)にモロッコのマラケシュで開催されたGGN国際会議に参加しました。会議に先立ち、室戸ジオパークの「再認定」が決定されたことはすでに報告した通りです。会議では、式典のほか、世界各ジオパークの取組紹介や研究成果の発表、各国のブース展示等が行われました。室戸の二人の専門員は、8日にそれぞれ口頭発表を行いました。

発表も終えた8日の夜、現地時間の11時過ぎ、マラケシュ南西部を震源とするM6.8の地震が発生。震源地に近い山間部を中心に甚大な被害が発生し、約3,000人の死亡者が出ました。私たちのホテルは世界文化遺産に登録されているマラケシュ旧市街地にあり、レンガや石積みの土台に漆喰で上塗りされた古くからの建物でした。目の前で建物の壁にひびが入り、天井から漆喰がパラパラと落ちてきたので、貴重品だけを持って直ちに建物から避難しました。

外に出ると悲鳴を上げながら逃げる人々。迷路のように入り組んだ狭い路地を進みながら、崩れた瓦礫を避けて、一番近いジャマ・エル・フナ広場に向かいました。広場でも地震に慣れていない人たちはかなりおびえた様子でしたが、幸い明りも灯っていたのでパニックになるようなことはありませんでした。その後、他のジオパーク関係者と合流してモスクの広場で夜を明かすことになりました。結局、泊っていたホテルは倒壊の恐れから警察による退去が命じられ、荷物を引き揚げて次を探すことになりました。

今回のマラケシュの震度は4～5くらいでそう大きくないものですが、この地域では100年以上同規模の地震が起きておらず、建物の耐震についての意識が低かったのでしょうか。被害も建物の倒壊によるものがほとんどでした。それでも一つ感心したのは、避難する人々が申し合わせもなく広場を目指したことです。おそらく地震の避難訓練などやったことのない人たちが、パニックを起こさず同じ方向に向かうことができたのは、モスクや広場を核としてでき上がった都市の構造のおかげでしょう。逆に明確な構造がない室戸ほか日本の街は、避難訓練や事前のハザードマップ確認は必須なのだと思感しました。



地震翌日の旧市街地の路地(中村撮影)

■【お問い合わせ先】

室戸ジオパーク推進協議会事務局 ☎ 22-5161



Youtube



Facebook



X (旧 Twitter)



Instagram